

第118号

真盛上人六字名号について

福井教区浜方組寶珠寺 前住職 竹澤 良全

真盛上人が、そのご生涯において書き与えられた六字の御名号は十万人に及ぶと云われています。上人の書かれた御名号は、一見してそれと分かる特徴があります。写真で示されたように三つの特徴があります。①鉤(かぎ・はり)と呼ばれるような南の字の書き方。②方と書かれた弥の字の書き方。③色と書かれた陀の字の書き方があります。その特徴を表現して、鉤名号・方名号・色名号と呼称されています。方・色の二字については、弥と陀の旧字ですので特に意味はありませんが、上人が好んで使われた書体です。本稿は上人の鉤名号についてその意味を考えてみます。

鉤名号の鉤は、針とも呼び釣り針を意味します。釣り針の針に引つけて衆生を往生させる意味があると伝聞されました。上人がその意味を込めて書かれたかは不明であるが、往生を釣り針と本願に譬えたものは存在します。伊勢の国木造村引接寺法道和尚の称名庵雜記卷十八に吞鉤の歌という一文があります。吞鉤とは魚が針を呑むことです。法道和尚が団扇に鉤人の絵が描かれているのをごらんになって、三部仮名抄の吞鉤の譬えの意味を歌にされた。

《餌を吞まぬ 魚に引かれ

て 鉤人の しばしば通う 苦しみの海》と詠まれた。

その歌の意味は、餌を吞まない魚が気になって(南無阿弥陀仏の名号を称えない衆生が心配になつて)鉤人が苦しみの海にしばしば通つておられる(気になつて仕方のない阿弥陀様が、度々、この娑婆世界へお出ましになられ、我が名を唱えよとお勧めになつています)というような意味であります。三部仮名抄の一部である帰命本願抄には、「およそ本願というものは棹(鉤棹)のようなものです。名号は鉤に似ております。衆生が南無阿弥陀仏と称えるのは、魚が餌を呑み込むことと同じです。となれば、衆生が既に大悲の釣り人である阿弥陀様の本願の棹にかけてある鉤を呑み込んで、生死の深淵(この世界)をはなれることは、更々疑いのないことである。棹にかけてある鉤は、どんな魚(衆生)でも釣り上げることができます。本願(棹)に垂れている名号(鉤)であれ



ば、称える人は必ず極楽浄土に生まれる。」というようなことが書かれています。餌を求めて釣り針を呑むまでは、魚のほんの小さい行為ですが、魚を釣り上げようと構えるのは釣り人の大きな力であります。往生を願って名号を唱えることは、衆生の小さい行為ですが、本願を構えて衆生を導くのは、みんな阿弥陀様の力であります。真盛上人の六字名号は、衆生が本願を信じて、念仏相続されることを願った鉤名号であつたと思っております。

上人は、名号と引き替えに誓約をとられました。授与者に日課念仏百遍とか二百遍という誓約をとって念仏相続されました。今改めて真盛念仏者としてこの日課念仏を推奨したいと考えています。折しも、数年後には不断念仏十九萬日法要を迎えようとしております。檀家の皆様が、日課又は月極の念仏を誓約され、萬日大法会にはそれぞれの誓約のお念仏が本山本堂で満願を迎えられるように、ご家庭で、御自坊で相続されることを願います。宗祖に対する最高の報恩謝徳の姿ではないでしょうか。

願以此功德・普及於一切
我等與衆生・皆共成佛道

(願わくは、この功德をもつて、あまねく一切に及ぼし、われ等と衆生とみなともに仏道を成ぜん)

お盆

福井教区 武生組 玉蔵院

河 合 真 現

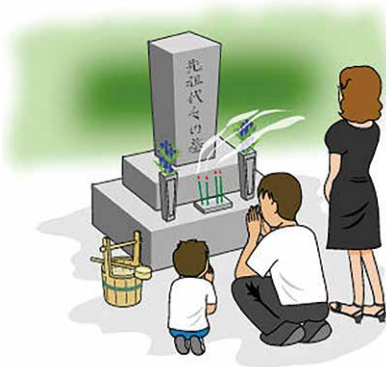
今年もお盆を迎える季節となりました。

ご先祖様をお迎えして、お盆の間、ゆつくり過ごしていただき、お見送りをする盂蘭盆会。大切に守っていきたいですね。

さて、このお盆、お迎えの仕方も、時期もいろいろあるようです。

ちなみに私のお寺では、新盆(七月)と旧盆(八月・月遅れ盆)とに分かれており、昔からお檀家さんは、どちらかのお盆で行います。

まず新盆では、お寺で預かっている盆灯籠を、お檀家さんが七月十三日の暮参りまでに取りに來られ、お家で紙



を綺麗に貼り替えます。この灯籠は木枠でつくられており、毎年張り替えます。そして、墓参りにこの灯籠をお墓に置き、中の蠟燭に火をつけ、お花・お供えなどの準備ができたなら、おつとめをします。その後、この灯籠をお寺の前に吊るします。ですから、夕方になると、色とりどりの灯籠でいっぱいになります。私が子供の頃、なんだかお祭りみたいでうれしい思いがしたものです。そして、棚経が終わり、十五日の夕方にはお精霊さんの法要で市販の灯籠(この灯籠はお盆の間、お仏壇の精霊棚に架けておきます)やお盆の水向え塔婆を燃やし、供養して、お見送りをします。

一方、八月の旧盆のお迎えは、旧盆の墓参りということで、十日にお檀家さんが、みなさんそろってお参りにこられ、お寺で預かっている塔婆を一軒ごとに読み上げ、お檀家さんに水向えをしていただきます。

すべて読み上げ、水向え回向が終わりましたら、あとはお食事。

父がいた頃は、この日朝早くから、お手伝いのお檀家さんが來られ、台所で食事の準備をしていただいたもので

す。『僕、どうぞ』って頂いた、ちょっと早目のお昼ご飯、今でもそのおしさは忘れません。

このように、お迎えする時期も、お迎えの仕方も異なっていますが、ご先祖様を偲ぶことには変わりありません。ところで蓮は泥の中に生まれても汚れなく清らかに咲くことから、仏教では『清浄無比の花』と尊ばれています。ですから、盆棚に蓮の華をお供えします。

ご先祖さまからいただいた尊い命、蓮の華のように汚れないよう、常日頃、心を磨きながら、一日一日を大切に送ってまいりましょう。



私のしんじん

孫達が、心も体も健康で、すこやかに育ちます様に。私達、年寄りが達者で長生き、ひとつでも、みんなの為に役立つ様な気働きができます様に。これは、毎朝の般若心経の後に、そつと口にする私の願いです。

先々代が裸一貫で米屋を始め、苦勞の末、工場と共に建てていただいた我が家の仏間は大屋根の座敷の一番奥。いつも「あかり」が灯いていないと、何だかさみしくて、小さなお灯明が、ひかっています。「いつも ほとけ様と一緒に寝起き」我が家流です。

私の誕生日は、昭和十五年一月三日。年末、モチつきをしていた身重の母が、すべって、七ヶ月で、この世に顔を出してしまった。あわてんぼうです。

あの、いまわしい太平洋戦争の、真っ最中。物資も、薬も、食べる物さえない時代。家族に、大変な心配と苦勞をかけながら、みんなの後から、未完成の身を、ひきずりつつ「みんなの半分の命しかない」という事を、決して忘れる事のない様に」と、心配して、さとしてくれた父の言葉を胸に「まちがったことを言わず、よこしまな考えを起こさず、あやまちをおかす様な危険をさけ、一日一日、自分の出来る最高の努力をしよう。」と、この世に送り出し、

育ててくれた、祖父母や両親に感謝しながら、精一杯、みんなと共に、歩まさせていただいて来ました。

五十才を過ぎる頃から、西教寺様との御縁を、結んでいただきました。三泊四日の「法華千部会」。私にとって、何もかも、夢の様な世界でした。宗祖大師殿、山門前で拝するまつくらな琵琶湖を走る一筋の光。朝焼けの空に、顔を出される、びっくりする程、大きな御来光に、御力を、いただいています。お中日には、忠霊堂から、仏教婦人会、詠歌講、雅楽、全末寺から選ばれた御忌僧による大練供養が、満開の桜のトンネルの下で、盛大に、くり広げられます。

千部世話方として、お接待で走りまわりながら、ありがたい御法要に、お参りさせていただける事に感謝しつつ、二十五年勤続。

これも、佛様の御加護の賜。明治四十二年生れの父と、大正二年生れだった母が、私の両肩に乗って、見守ってくれてくれている事に感謝しています。今、大善寺は、故、八耳哲雄御山主様のお弟子で、中国出身、氣功師の資格もお持ちの「蘇洪哲」お上人様と共に新しい途を歩みはじめています。

高島市勝野

大善寺檀徒 萬木 久子

宗祖真盛上人鑽仰会の活動について

宗祖真盛上人鑽仰会 事務局

平成二十四年鑽仰会設立以来、本山及び各教区にて「宗祖真盛上人鑽仰法要」を厳修し、真盛上人の御教えの講演会を開催致しております。また、平成二十七年には、善光寺御開帳大勸進天台真盛宗法要に特別企画として参拝致しました。

そして、宗祖真盛上人二十五霊場寺院・番外寺院・史跡寺院の充実をはかるため、二十五霊場の朱印帳・朱印軸のぼり旗・パンフレットを製作しましたので、みなさまの参拝をお待ちしております。

また、今後の活動につきましては、鑽仰会機関紙の発行を予定しております。今一度、宗祖真盛上人の足跡をめぐり、現代社会にも通用する真盛上人の生き方を顕彰して頂きますよう、これらのものを大いに活用して頂きます事を願っております。

平成二十九年 宗祖真盛上人鑽仰会 鑽仰法要・講演会及び総会

場所 福井教区 武生 引接寺
日時 十月六日（金）午後一時より
講演 放光寺住職 山田泰弘 様

会員入会は、随時行っております。



天台真盛宗の雅楽 ががく

③

今回は筆簾ひつりきと横笛おうてきです。筆簾は長さ約十五センチの竹製の縦笛で指孔は前面に七つ、後面に二つ有り、蘆あしを加工し平らにした舌した（ダブルリード）を差し込んで鳴らします。

小さい楽器ながら大きな艶やかな音色で塩梅えんばいという声明でも使われます微妙な高低音の変化が特徴で主旋律を担当します。

横笛は長さ約四十センチの竹製の楽器で七孔が有ります。

吹く息の強さによって同じ指孔ふくらで和と言う低音からオクターブ上の責せと言う音を作る事が出来るので主旋律の装飾音を担当しています。

また、別名龍笛りゅうてきとも呼ばれその音色が龍の鳴声の様だと言われる所からきたそうです。

余談になりますが笙、筆簾、笛の管楽器は竹で作られます、昔の家の何十年も使われていた囲炉裏などの天井で燻製された煤竹すすたけは非常に貴重で雅楽楽器職人は全国を探し求め回っているそうです。次回からは打楽器について案内します。



各ご寺院様へ

本山団体参拝のお願い

本山では、一年を通して、各種ご予算に合わせたお料理「精進料理・山菜料理・幕の内」をご用意しております。本山への納骨や御回向後の昼食にご予約いただけます。

また、各種研修会などの施設利用、ご宿泊に研修道場をおすすめいたします。

研修道場の宿泊人数は最大200名です。

11月初旬より末日までは、菊料理をご賞味いただけます。この料理は日本中で、西教寺でしか味わうことができない貴重な料理で、1200年前に、比叡山延暦寺の最澄が中国から持ち帰り伝えられた食用菊を使った料理です。

多くの方々の参拝をお願いいたします。



菊料理 2,500円(税別)



幕の内 1,500円(税別)



研修道場
1泊2食 1名 5,400円(税別)

団体参拝

ありがとうございます

平素は、多数、檀信徒様の総本山への御登山、御参拝を賜り誠にありがとうございます。

今後共、各末寺の御住職、檀信徒様によりよいご参拝がいただけますよう拝観案内等充実につとめてまいりますので、たくさんの方々の御参拝をお待ちしております。

十一月

二十二日 伊賀教区北部組西方寺様団体参拝 三十五名

二十三日 伊勢教区小倭組成願寺様団体参拝 三十八名

二十三日 伊勢教区亀山組遍照寺様団体参拝 四十名

二十三日 滋賀教区高島組玉林寺様団体参拝 十五名

二十四日 伊賀教区西部組西念寺様団体参拝 七十二名

二十五日 伊勢教区笠松組浄泉寺様団体参拝 三十四名

五月

十八日 伊勢教区小倭組上組念仏寺様団体参拝 四十名

二十二日 伊勢教区笠松組浄泉寺様団体参拝 三十九名

発行所 天台真盛宗教学部

大津市坂本五丁目十三-一

総本山西教寺内

電話 大津 (〇七七五七八) 〇一三番代

印刷所 宮川印刷株式会社

大津市富士見台三十八

電話 (〇七七五三三) 二二四一番